

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0270700248
法人名	社会福祉法人 楽晴会
事業所名	松園グループホーム・スカイ
所在地 (電話番号)	〒033-0037 青森県三沢市松園町2丁目7番15号 (電話) 0176-53-3550

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年10月21日	評価確定日	平成22年1月4日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 ~ 25,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,380 円			

(4) 利用者の概要(9月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1		要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	名
要介護5	3 名	要支援2	名
年齢 平均	84.7 歳	最低	78 歳
		最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みさわクリニック、黒田第二歯科、三沢聖心会
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>住宅地の中に建てられており、事業所の中庭には木々や花を植え、散歩できるように工夫されている。事業所内は採光も良く、落ち着いた装飾で居心地のよい空間となっている。併設施設との支援体制もできており、医療研修を行うなど充実した研修を行い、ケアの向上に努めている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議を定期的に行えるよう話し合いを行い、地域の協力を得ながら取り組めるよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価に取り組み、ケアに生かせるように日々取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に行われるよう努め、地域と連携できるように地域の代表者からの意見も取り入れながら、対応について検討されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族の面会は多く、遠方の家族とは電話で状況報告を行い、連携がとれている。毎月1回オンブズマンの来訪があり、話しやすい環境も作っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域には高齢者が多く、月2回介護予防教室を開催し、転倒予防や脳の活性化などの内容で行っている。また、夏祭りなど事業所の行事へ住民の参加もあり、地域住民との交流が積極的に図られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、法人の理念を基に「明るく・楽しく・元気な笑顔」を事業所の理念として管理者と職員が共につくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフが入り出る部屋に掲示し、いつでも確認できるようにしている。理念の実践に向けて日々話題に触れながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域には高齢者が多く、月2回介護予防教室を開催し、転倒予防や脳の活性化などの内容で行っている。また、夏祭りなど事業所の行事へ住民の参加もあり、地域住民との交流が積極的に図られている。状況をみながら、もっと事業所を知ってもらえるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の目的を職員に伝え、意義を理解したうえで、全職員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果は、家族にもわかるように掲示している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族代表や自治会長らが参加し、定期的開催されている。地域の代表者からの意見も取り入れながら、今後の活動についても話し合われている。食費の変更や外部評価の報告をし、家族だけでなく地域の方にも知って頂くよう努めている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>三沢市でのケアマネジメント会議に参加し、情報交換を行い、事業所や病院での状況などの情報を共有し連携を図っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護や成年後見制度を利用されている方がおり、身近な制度として理解し、対応できている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>部門会議において、日々の業務の中においての行動が虐待にならないかどうか話題に触れ注意している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>料金や事業所としてのケアの取り組みなど説明を十分に行い、同意を得ている。変更が生じた場合も家族に伝え、説明を行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時や電話で利用者状況を報告している。毎月1回は必ず金銭に関して報告し、領収書を渡し確認を行っている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設けているほか、毎月オンブズマンが来所し利用者の訴え等も聞き、ケアに活かしている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年度においては異動はなく、同じ職員で対応できている。また、同法人内で介護経験のある職員を配置し、馴染みの関係が築けるよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、外部研修に参加し伝達研修を行っている。事例検討や医療研修なども行い、スキルアップを図っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三沢市地域包括支援センターが主催するケアマネジメント会議に参加し、他事業所との連携を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に納得してもらえるように家族の協力を得ながら、入居へと勧めている。入居後は馴染めるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から植物の手入れを教わったり、利用者からの言葉により励まされたりと、喜怒哀楽を共にして支えあえる関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>表情などから思いを引き出したり、導き出して個々の思いを把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントは担当の職員が行い、他の職員と情報を共有したり、家族と話し合いながら介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態変化時は見直しを行い、家族など必要な関係者と話し合いをしながら、計画を作成し説明している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診など、家族が対応できない時は状況や要望に応じて支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々のかかりつけ医と連携を取り、受診時家族対応が困難な場合には職員が代行し、適切に医療が受けられるように支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早期に主治医に相談するなどして対応しており、現在終末期の対応は行われていない。支援センターと連携して、事業所として対応できる方法を検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケアカンファレンスや会議の際に声掛けに対して話題に触れケア時に注意するようしたり、個人情報事務所より持ち出す事なく保管されており、戸が閉められているなど管理されている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるものの、利用者の状態や思いを引き出しながら対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や米ときなど個々のできる事を取り入れながら、一緒に行っている。毎月給食会議を行い、行事食などについて改善案を出したりして楽しみを持てるように配慮している。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	行事以外はほぼ毎日午後に入浴を行い、希望に沿えるように対応している。利用者の状態により、併設の事業所の設備を利用して不安なく入浴できるように対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴に配慮した声掛けを行い、役割を持てるようにケアにつなげるなど支援できている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事を計画して外出する機会へとつなげている。近所にスーパーもあり、希望を聞きながら個別の外出も支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>会議等で折に触れ、お互いに確認しあったり、外部研修後は伝達研修を行い、正しく理解できるようにしている。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>居室、玄関共に鍵を掛けることなく目配りをして対応している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回消防立会いのもと、地域住民にも参加していただき、避難訓練を行っている。また、併設の事業所と合同で、通報訓練や消防訓練も行っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者個人の摂取量を把握し、対応している。利用者の状態意応じて無理なく摂取できるよう配慮している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>委員会を立上げ、法人としての対応を統一している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者と職員が共に飾りづくりを行い、季節に応じた飾りつけで落ち着いた雰囲気を作り出している。</p>		<p>他事業所との併用の玄関であるが、グループホームの場所として誰が来ても分かりやすく、訪問しやすいような表示方法が望まれる。</p>
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>なじみの物を持ってきて頂いたり、落ち着いた気持ちで過ごせるよう家族の協力のもと配慮されている。</p>		

 は、重点項目。